2020年10月の格言

令和２年１０月の格言は

人材の下には人材が隠れていても育たない。

人材は、優秀なるが故にその部門をすべてうまく切り廻す。
それはそれで結構だが、だからといって、
便宜主義でいつまでも一つの部門に止めておくと、
その人材のみならず、その人材が上にいるために、
あたら伸びるべき新人の芽まで摘んでしまうという二重の損害を、
これまた誰も知らぬ間に受けてしまうことになるのである。
人材の下には人材がかくれていても育たないことを知るべきである。
さあ、こうなったら、もう社長は人事異動をためらうべきではない。
異動当座の僅かな仕事の停滞など恐れてはいけない。
「一文惜しみの百文失い」にならぬよう、人事異動を行うべきである。
異動のための障害や制約条件などは、決意さえあれば、どうにでもなるのだ。
躊躇せずに踏み切るべきである。
適性がどうだとか、経験がどうだとか、あとが困るとかいっていたら、
何も出来ないのだ。

一倉定先生著「一倉定の経営心得」組織と人より